

卒業生の皆さんへ——式辞に代えて——（平成22年度）

共立女子大学
共立女子短期大学
学長 入江和生

卒業生の皆さんにご挨拶申し上げます。

つい先日の3月11日に記録的な大地震が東北・関東地方を襲い、それに伴って日本国土の主として太平洋沿岸地域を津波が襲い、さらに追い打ちをかけるかのように原子力発電所の事故まで起こり、大きな被害をもたらしました。被害の全容がどれくらいなのか、また、それが明らかになるのがいつか、現時点では推測もできませんが、現在明らかになっている被害状況だけを見ても、そのあまりの凄まじさに、言葉を失います。卒業生の皆さん、およびそのご家族・ご親戚の方々と、なんらかの被害にあわれた方もおられることと存じます。あるいは、近い関係の方で、犠牲になられた方がおられるかもしれません。言葉はすべて虚しいものですが、衷心よりお見舞い申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。皆さんが巣立とうとしている社会は、現実的にも、あるいは比喩的にも、多くの災害に満ちています。自然災害ばかりでなく、交通事故やテロなど、人間に起因する災害をも考慮すれば、今、人類は、かつてなかったほど多様で大規模な危険にさらされていると言っても過言ではありません。さらに、中東を始めとする世界各国の政治的混乱と、その、他国への波及効果、あるいはまた我が国のさまざまな憂慮すべき国内事情を考えれば、不安ばかりが先に立ってしまうのもやむをえません。こういう社会に皆さんは巣立とうとしているのです。それは、言葉を換えれば、社会は、皆さんの巣立ちを待ち受けている、ということでもあるのです。今ほど不安定な社会がかつてなかったとすれば、今ほど、若い、有能な人材が求められている時代もかつてなかったのです。

本学が心掛けていることは、どんな事態に直面しても、自分を見失わず、自分および回りの人々を確かな未来に導くことのできる力を持った卒業生を輩出することです。本学は、各々の専門課程の教育に力を入れ、その方面で人生を築いてゆけるよう配慮するばかりでなく、教養教育を一本化し、強化することによって、この側面に特に力を入れていると広言することができます。目指すところは、精神力、あるいは人間力の涵養です。本学はそのことのために全力を尽くしております。

大学が究極の目的とするところは、社会の発展に寄与できる人材を育成することです。卒業生の皆さんが、自らの価値観を信じ、守りながらも、同時に、全く異なった価値観の存在を認め、尊重することによって、人々のあいだに和をもたらす原動力となってくださることを切望いたします。言うまでもなく、この世には、大きな悲しみや不幸が存在します。その現実を冷静に見据えたうえで、一人一人が、それぞれの可能性の範囲内で、人類の幸福のために力を尽くすことが求められています。皆さんにも、それぞれ、本分を尽くしていただきたいと思います。

これからの皆さんには、さまざまなかたちで仕事とか義務とかいうものが課されてきます。それが仕事とか義務とかである以上、言い訳や言い逃れの許されない、厳しいものであることは言うまでもありません。しばしばその重荷に耐えかねて、しばらくの休息を必要とする場合が生じることも事実であり、そのときには断固として休息をとらなければなりません。しかし、今、皆さんに申し上げたいのは、仕事をただ単に重荷と考えないでいただきたい、ということです。自分に課されている義務があり、自分に期待されている仕事があれば、その遂行のために全力を尽くし、期待に応えることは、大きな喜びです。そこからくる達成感、充足感、は、生きる喜びと直結するものです。安楽な人生を求めず、むしろ闘う人生を求める心で巣立ってほしいと思います。

今さら申し上げるまでもなく、私ども学園関係者は等しく、卒業生の皆さんが幸福になられることを、ご家族の方々と共に、願っています。皆さんは、幸福になるためにこの世に生を享けたとも言えます。しかしながら、「幸福は、幸福以外のものを追い求める人のところへやってくる」という言葉があります。幸福は求めて得られるというものではありません。皆さんが、幸福以外に、一生をかけて追い求めるものを持ち、その結果として幸福になられることを、切に願っております。

す。

皆さん、辛いことがあっても挫けないでください。本学での思い出を心の糧として、本学の卒業生としての誇りを失わず、力強く人生を築いていってください。卒業はその門出です。卒業生の皆さんのご卒業を心からお喜び申し上げる次第です。皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

最後に、ご家族の方々にお祝いと御礼を申し上げ、卒業生の皆さんの今後のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

平成23年3月15日